

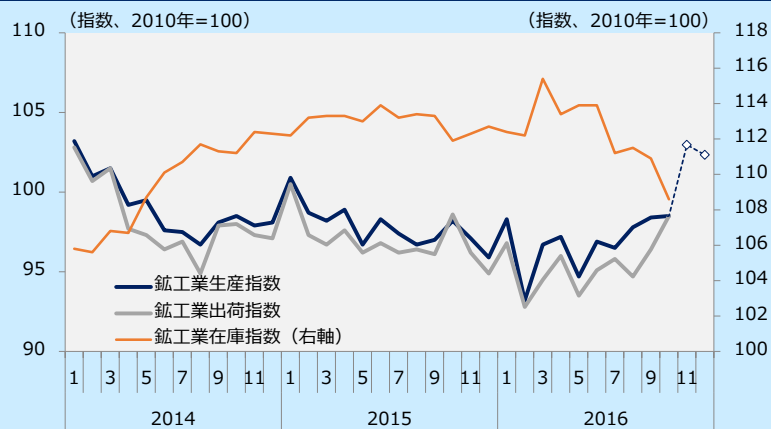
日本：鉱工業生産指数（2016年10月）

—電子部品や自動車を中心に生産持ち直しが続く—

MRI Daily Economic Points

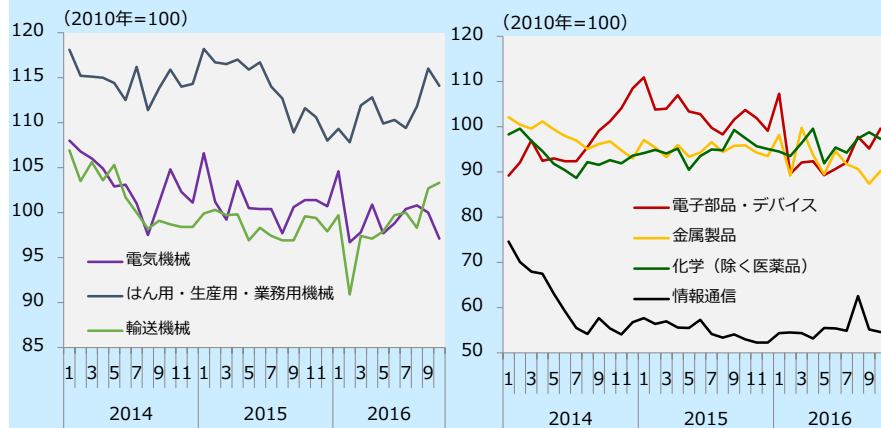
November 30, 2016

図表 鉱工業生産／在庫指数



資料：経済産業省「鉱工業指数」、11、12月は「製造工業生産予測調査」

図表 業種別の生産指数



資料：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

2016年10月の結果

- 2016年10月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比+0.1%と3ヶ月連続で上昇。
- 生産の業種別内訳をみると、スマートフォン向けを中心に電子部品・デバイス（季調済前月比+4.6%）が上昇。さらに輸送機械（同+0.6%）や、建設関連金属の増加から金属製品（同+3.2%）も上昇した。一方で、はん用・生産用・業務用機械（同▲1.6%）が、これまで堅調だった半導体等製造装置の減少などから低下。また、自動車用照明やパソコン関連の減少から、電気機械（同▲2.9%）、情報通信機械（同▲1.1%）も低下した。
- 出荷指数は、輸送機械（季調済前月比+2.2%）や電子部品・デバイス（同+6.1%）の上昇が主因となり、同+2.2%と2ヶ月連続で上昇した。
- 在庫指数は、季調済前月比▲2.1%と2ヶ月連続で低下。高止まりが続いていた電子部品・デバイスや電気機械を中心に在庫調整が進んでいる。
- 製造工業生産予測調査によると、11月は季調済前月比+4.5%と大きく上昇した後、12月は同▲0.6%と低下する見込み。11月は、今月低下したはん用・生産用・業務用機械や電気機械を中心に上昇が予測されている。また、10-12月の鉱工業生産は、予測調査対比で下振れる傾向を踏まえても、プラスとなる可能性が高いとみられ、経済産業省公表の先行き試算値では季調済前期比+1.7%の上昇となっている。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、緩やかながらも持ち直しが続いている。
- 先行きは、持ち直しが続くと思われるが、そのペースは緩やかになるだろう。外需は、世界経済の持ち直しを背景に回復が続くとみられるが、新型スマートフォン関連の押上げが次第に剥落していくことから、そのペースは鈍化すると見込む。また、内需は、自律的な回復力は弱いものの、在庫調整圧力の緩和や経済対策による需要の押上げにより緩やかな回復が続くだろう。
- ただし、海外経済は不確実性の高い状態が続く。米国新政権の政策運営や中国経済の減速スピード次第では、外需が下振れ、生産に波及する可能性には注意が必要だ。